

学校の教育目標

強く正しく生きる大江の子
よく考える子 はげまし合う子 進んできたえる子

めざす児童の姿

- ◆国語で表現された内容や事柄を正確に理解できる児童
- ◆正確な内容理解の上で、考えを形成できる児童

研究主題

正確な理解をもとに、考えを形成できる児童の育成
～学びを自覚できる児童をめざして～

研究内容

【研究内容Ⅰ】

「考えの形成」に向けた指導計画

- 1 「考えの形成」についての指標の位置付け
 - ・評価規準として
 - 指導の検証として
- 2 単位時間におけるまとめの位置付け
 - ・展開案へのまとめの位置付け
 - 条件の設定

【研究内容Ⅱ】

学びの自覚化に向けた学習過程

- 1 対話的活動の設定
 - ・話し合い活動の充実
 - 実態に応じた指導
- 2 振り返りの工夫
 - ・学びが自覚できる振り返り
 - 「たいせつ」－「ふりかえろう」の活用

国語科学習の土台形成のための取組

- ICT活用、端末の常備
 - ・視覚化と共有化
 - ・個人端末での活用
 - ・AIドリル
 - ・e-Library
- その他
 - ・発達段階における対話活動の在り方
 - ・地域ボランティアによる読み聞かせ

研究仮説

「考えの形成」についての指標は、継続して取り組む。その上で、単位時間において提示された条件に沿ったまとめを書いたり、意図的に実態に応じた話し合い活動を仕組むことで、より深い考えをもち、表現できるのではないか。また、単元の振り返りを充実させることで、児童は、「～という学習（←言葉による見方・考え方）をしたら～できるようになった」という学びを自覚できるのではないか。

今日的課題

- ・言葉を通して的確に理解する力の育成
- ・論理的に思考し表現する能力の育成
- ・日常生活(対話、記録、報告、要約、説明、感想などの言語活動)に必要な基礎的な言語能力の育成
- ・互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力の育成

児童の実態

【昨年度までの研究から】

- 外部テストにおける結果では、指導事項の「オ 考えの形成」と「カ 共有」にあたる問題において、多くの学年で全国を上回り、また、昨年度と比較しても上回った。
- 全国学調の児童質問紙での回答において、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という設問に対し、9割以上が「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答した。

【課題】

- ・全国学力・学習状況調査の条件付き長文記述問題では、全国比で上回った設問もあれば、下回った設問もあったので継続した指導が必要である。
- ・話し合いが一方通行になる場合があり、聞く力の育成の必要がある。(研究発表ご指導より)